令和4年度

教育研究所事業報告

四万十町教育研究所

１．教育研究活動（研究員の調査研究テーマ）

ICT の効果的活用による情報活用能力の育成と、個別最適化された質の高い学びの研究

研究員　　浜口　千茶

【テーマ設定の理由】

本町では、GIGA スクール構想に基づき、情報活用能力の育成と個別最適化された質の高い学びを提供する環境を整備し、プログラミング教育を含めた情報教育を推進していくことと、対面指導のオフライン教育と ICT によるオンライン教育を組み合わせた新たな教育の実践を目指している。本年度は、町内全ての小中学校全員にタブレットが導入され、本格的な活用が進められ、端末の家庭への持ち帰りに向けての環境整備も行われる。

このことを踏まえて、各学校での課題に即した情報提供を行い、町内の学校や家庭での端末の効果的な活用を進めることが必要であると考え、上記のテーマを設定した。

【調査研究の概要】

○　「主体的・対話的で深い学び」に向かうための授業改善において、ICT を効果的に活用した指導方法の検証と授業実践。

○　端末を持ち帰り、家庭学習での活用に向けた取り組みの提案と検証

○　先進校の事例や学校での取り組みの情報発信

【成果と課題】

成果

◇今年度もタブレット活用実施に向けて、町内１５校でスムーズに活用できるように学校教育課と連携し、「四万十町として目指す ICT 活用の姿」「端末の活用目標」「端末の日常的な活用方法」「端末の取り扱い方のルール 10 の約束」「健康面での注意」等を記した【GIGA スクール構想１人１台端末に向けて　四万十町版ハンドブック】を作成し、町内の全小中学校に配布した。また、四万十町の教員に向けて「研究員通信」を発行した。

◇今年度より導入実施した学習支援アプリの活用促進に向けての授業実践を行った。

◇町内の学校でのプログラミング学習に参加し、活用方法を学んだり児童の学習の様子を見たりすることができた。また「授業づくり講座」や情報教育推進リーダー養成事業研修に参加することで、教科におけるタブレットの効果的な活用方法やプログラミング学習についての情報収集をし、町内の学校で授業実践をした。また、研究所に保管している「アーテックロボ」の貸し出しを行うとともにプログラミングの授業内容の提案や実践を行った。

◇9 月試行、10 月より実施されたタブレット端末持ち帰りに向けての資料作成や家庭学習での活用に向けた取り組みの提案を行った。

◇今年度の１人１台端末活用状況調査を行い実態把握をして検証するとともに、来年度に向けて各学校で目安にしてもらえるように児童生徒のプログラミング学習を中心とした四万十町版情報活用能力系統表を作成した。

課題

◆情報担当の先生と連携して校内研修支援を積極的に提案することができなかった。

◆教科の中での活用方法を多様に示すような提案授業ができなかった。

＜ICT に係る研修＞

4月15日	情報教育推進リーダー養成事業研修
5月13日	学習支援アプリオンライン研修
5月31日	興津小学校５，６年生プログラミング学習
6月　3日	情報教育推進リーダー養成事業研修
6月　6日	十川小学校５年生プログラミング学習
6月　9日	川口小学校５，６年生　学習支援アプリ活用授業参観
6月10日	昭和小学校５年生学習支援アプリ活用授業
6月16日	昭和小学校５，６年生学習支援アプリ活用授業 川口小学校５，６年生学習支援アプリ活用授業
6月21日	情報教育推進リーダー研養成事業に係る公開授業 昭和小学校５，６年生プログラミング学習
6月24日	四万十町情報教育担当者会オンライン
6月27日	影野小学校プログラミング校内研修（講師：中部教育事務所指導主事）
6月30日	東又小学校６年生学習支援アプリ活用授業
7月　1日	川口小学校授業づくり講座　複式算数
7月14日	窪川中学校授業づくり講座　英語
8月　1日	情報教育推進リーダー養成事業研修
8月　8日	情報教育推進リーダー養成事業　オンライン研修３日間
9月　7日	学習支援アプリオンライン研修
9月21日	影野小学校 Google アプリ活用校内研修
9月28日	影野小学校１，２年生学習支援アプリ活用授業
9月30日	四万十町情報教育担当者会オンライン
10月　8日	令和４年度　新しい時代の ICT を活用した学びフォーラム
10月　4日	窪川小学校授業づくり講座　理科
10月14日	七里小１年生・2，３年生学習支援アプリ活用授業
10月19日	東又小学校プログラミング校内研修（講師：黒岩小学校　黒瀬校長先生）
10月24日	久礼小学校　情報教育推進リーダー養成事業に係る公開授業
10月26日	米奥小学校１，２年生・3，４年生学習支援アプリ活用研修

１０月２８日	川口小学校授業づくり講座　複式算数
１０月２９日	米奥小学校参観日タブレット操作研修
１１月　１日	昭和小学校５，６年生プログラミング学習 川口小学校１，２年生・３，４年生学習支援アプリ活用研修
１１月　２日	昭和小学校５，６年生プログラミング学習
１１月　９日	東又小学校校内研修（講師：黒岩小学校　黒瀬校長先生）
１１月１０日	昭和小学校５，６年生プログラミング学習
１１月１１日	窪川小学校２年Ｂ組プログラミング学習参観
１１月１４日	昭和小学校５，６年生プログラミング学習
１１月１５日	昭和小学校５，６年生プログラミング学習
１１月１６日	情報教育推進リーダー研養成事業に係る公開授業 昭和小学校５，６年生プログラミング学習
１１月２２日	川口小学校１，２年生学習支援アプリ活用
１１月２４日	東又小学校３年生学習支援アプリ活用研修
１１月２９日	窪川小学校授業づくり講座　　理科
１２月　６日	七里小学校１年生・２，３年学習支援アプリ活用研修 川口小学校１，２年プログラミング学習
１２月１２日	大正中３年生プログラミング学習補助
１２月１３日	窪川中３年生プログラミング学習補助
１２月１５日	米奥小学校校内研修（講師：黒岩小学校　黒瀬校長先生）
１２月２６日	情報教育推進リーダー養成事業に係る研修
１月２３日	北ノ川小学校１，２年生学習支援アプリ活用研修 ３，４年生プログラミング学習
１月２４日	窪川中学校授業づくり講座　英語
１月２５日	仁井田小学校プログラミング校内研修
１月３０日	北ノ川小学校５，６年生プログラミング学習
２月　１日	窪川中学校２年生プログラミング学習補助
２月　２日	七里小学校１年生・２，３年生プログラミング
２月　７日	情報教育推進リーダー養成事業研修
２月１６日	田野々小学校１，２年生学習支援アプリ活用研修　プログラミング学習
２月２０日	東又小学校６年生プログラミング学習
２月２８日	東又小学校５年生プログラミング学習
３月　８日	興津小学校５，６年生プログラミング学習
３月　予定	川口小学校１，２年生プログラミング学習

２．学校への研究支援

（１）Q-U・hyper-QU の取り組み

【実施計画】

期　日	内　容	備　考
４月	校長・教頭合同会で実施のお願い	
４月	各学校の注文書の回収	全小中学校
５月・　６月	全小中学校で１回目実施	全小中学校
10月・11月	全小中学校で２回目実施コンピュータ診断	全小中学校
１月	実績報告・まとめ	

【目的・概要】

Ｑ－Ｕは、「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」と「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」からなり、児童生徒の心を理解するための調査方法の一つである。また、「日常の行動をふり返るアンケート」の hyper-ＱＵを中学校に導入している。教師が児童生徒の個々の状態と学級の状態を理解するための客観的で多面的な資料となりうるものであり、また、学級集団づくりや児童生徒理解、教育実践の効果測定、不登校予防、いじめの発見・予防、学級崩壊の予防において活用され効果が期待できるものである。

本町が、Ｑ－Ｕに取り組み始めて 17 年目を迎え、今年度も全小学校・中学校で実施することができた。

【成果と課題】

Ｑ－Ｕ・hyper-ＱＵの活用については、実施データを細かく分析し、全職員の資料として校内研修などでの活用や児童生徒の個人面談の資料とするなど、各学校での取り組みが継続されており、児童生徒理解につながっている。

今年度から、Ｑ－Ｕの活用の実施時期やコンピュータ診断依頼時期、実施回数を町内小学校で揃えて取り組むようにし、コンピュータ診断結果が同じ時期に揃うようにした。そのことにより、バラバラに集まっていたデータが同時期に揃うことができた。

教育研究所でも、実施データは簡易プロット表（コンピュータ診断の場合はデータ）を作成して蓄積し、全町の児童生徒の傾向を把握している。また、各校から出されたデータをもとに傾向を分析し、所内会で報告し、学校支援の一助となるように、職員間で情報の共有を行った。また、昨年度に引き続き、小学４年生以上の SNS 関係の集計結果については、少年補導センターとの全体会において情報共有を図った。

今後は、Ｑ－Ｕ・hyper-ＱＵのより効果的な活用や、学級経営のマネジメントにどう反映させていくのかが課題である。研究所からも積極的に情報発信をしていきたい。

【今後の取り組み案】

Ｑ－Ｕ・hyper-ＱＵのより効果的な活用や、学級経営のマネジメントに反映させていけるように情報発信を行う。QU と類似している質問調査が行われていることから、今後どのような形式で行うのか検討していくことも考えていくようにする。

（2）「いのちの学習」への支援

【実施内容】

○「いのちの学習」実施校

◆川口保育所　◆認定子ども園たのの　◆認定子ども園たのの　◆昭和小学校

◆大正中学校　◆小鳩保育所　◆田野々小学校　◆東又小学校

【目的・概要】

研究所では、「いのちの学習」に取り組む学校や保育所に、教材の貸し出しや授業への協力などの支援を行っている。

「いのちの学習」の目標は、

① いのちの大切さについて学ぶ。

② 友達の気持ちを考えることのできる共感性を育てる。

③ このプログラムを通して家族の絆を大切にする心を養う。

である。幼児期・児童期の早い時期にいのちの教育をすることで、いのちに関心を持ち、いのちを大切にしていく心を育てていこうとする取り組みである。

母親のお腹の中にいる赤ちゃんの心音を聞いたり、エコーの画像を見たり、赤ちゃんに触れ合うなど、成長を観察したりする体験的な活動と合わせて、家族から話を聞くことや絵本の読み聞かせや紙芝居、胎児人形、赤ちゃん人形等を使った学習も行っている。

【成果と課題】

年間を通して定期的に「いのちの学習」に取り組んでいる保育所・認定こども園や、研究所便りの情報から、教材の利用を希望した学校があった。学校においては、養護教諭が所有している教材を使用していることも多いため、研究所への貸し出し希望は多くはないが、妊婦体験シュミレーターのようにここでしか借りられないものの利用は増えてきている。

また、保育所等と中学校が連携して取り組んでいる場合もあり、子どもたちの発達段階に合わせた「いのちの学習」が継続して行うことができている。

研究所としては、貸し出し教材等の問い合わせに対しての資料提供、授業参観や学習中の幼児・生徒へのサポートとして関わらせていただき、研究所便りで町内の小中学校に紹介することができた。

課題としては、各校へと取り組みがさらに広がるように、情報発信と併せて学習内容の充実も図っていく必要がある。

【今後の取組案】

各校の取り組みについて情報収集等を行い、保幼・小・中の連携した取り組みについての情報発信や実施につながるようなサポートを行っていきたい。

（3）校内研修支援

【実施時期】

川口小学校	教材研修（授業づくり講座・公開授業・研究協議）	5/16、7/1 、7/8 、9/27 、10/28
窪川中学校	教材研修（授業づくり講座）	5/30、7/14 、10/3 、1/24
昭和小学校	校内研修（特別活動公開授業・研究協議）	5/31 、9/27 、11/16、12/7 、1/19
田野々小学校	校内研修（公開授業・研究協議）	6/13 、3/6
窪川小学校	校内研修（特別活動公開授業・授業づくり講座）	6/14、10/4 、11/11 、11/17 、11/29、 2/8
影野小学校	校内研修（公開授業・研究協議）	6/27、9/21
七里小学校	校内研修（公開授業・研究協議・講話）	7/15 、11/30 、 2/2
東又小学校	校内研修（公開授業）	10/19 、11/9 、12/15
米奥小学校	校内研修（公開授業・研究協議・講話）	10/20 、10/29
大正中学校	校内研修（特別活動公開授業・研究協議・講話）	11/17 、2/6
仁井田小学校	校内研修（講話）	1/25

○四万十町小小・小中連携教育推進協議会　5/12　7/28　11/8　12/27
○四万十町道徳教育推進協議会　6/20　2/21

【目的・概要】

本町の教育委員会では、校内研修を活性化するために校内研究支援事業を行い、学校独自で使える研修費の補助を行っている。そこで、研究所でも、各学校の校内研修に参加し、研修が活性化するように協力・支援を行っている。

基本的には、校内研修を公開している学校を中心に、ともに研究する仲間の一人として校内研修等に参加させていただくことにする。

【成果と課題】

今年度は、１１ 校の小中学校の校内研修に参加させていただいた。各校の公開授業を参観することで、小学校や中学校の学習内容の系統性や日々の取り組みの成果を、適宜情報発信することができた。また、授業後の研究協議等にも参加することができ、学校の取り組みや方向性が明確になるとともに、よりよい学校支援のあり方を考える契機となった。

課題としては、町内の全小中学校での公開授業、または、校内研修や学校行事等へ一度は参加し、各校の取り組みについて把握できるよう、依頼や日程調整を行っていく必要があったが各校での研究授業等の日程が重なることが多くあり、参加できない学校もあった。

【今後の取り組み案】

来年度も引き続き、校内研修や学校行事などには、できるだけ参加するようにしたい。また、各校の取り組み等について、情報を発信することによって、それぞれの課題に沿った支援となるように取り組んでいきたい。

３．教育支援センターの運営

【目的・概要】

◆諸事情（心理的・情緒的・身体的等の理由）により不登校状態に陥った児童・生徒に対して、相談及び個別指導、集団生活の指導・支援を行い、学校生活への復帰及び自立を図ることを目的とする。

◆義務教育終了後、進路が決定していない者等に対して、相談及び情報の提供、学習支援などを行い、社会への参加及び自立を図ることを目的とする。

◆教育支援センターでは以下の指導目標に基づいて、子どもの成長や課題に合わせて個別に支援を行い学校復帰を目指す。

（指導目標）

〇心の安定を図る

・教育支援センターが通室生にとって安心できる居場所となるように支援する。

〇規則正しい生活リズムを身につける

・教育支援センターに通室してくることで生活リズムが作られるように支援する。

〇他人の気持ちを考え、認め合うことができる

・人と関わったり、つながったりする楽しさを感じられるように支援する。

〇様々な活動を通して自信を持つことができる

・子どもたちそれぞれが自分の得意な分野での活動を通して自信を持つことができるように支援する。

【通室生の推移】A～H（かげつ入室願受領順）I～K（たのの・とおわ入室願受領順）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
4月	通室	通室							通室	通室	
5月	通室	通室							通室	通室	
6月		通室							通室	通室	
7月		通室	通室						通室	通室	
8月	転校										
9月		通室	通室	通室					通室	通室	通室
10月		通室	通室	通室	通室	通室				通室	
11月				通室	通室	通室				通室	
12月				通室	通室		通室			通室	
1月				通室	通室		通室	通室		通室	
2月				通室	通室		通室	通室		通室	
3月				通室	通室			通室		通室	

【本年度の活動の概要】

今年度も、年間行事予定により「かげつ」「たのの」「とおわ」の行事を行ってきたが、昨年同様にコロナ禍のため延期になったり中止になったりした。それでも、「かげつ」「たのの」「とおわ」の交流でオーテピアに見学に行けたことが成果としてあげられる。行事には、毎月１～２回「かげつ」に来てくれているSC（スクールカウンセラー　以後SCと記す）にも参加してもらった。

【次年度への課題】

「教育支援センター」では、本人・学校・SSW・保護者等と随時に相談しながら児童生徒の状況に応じた学校復帰や進路等について、全員が情報共有と支援方針の確認のもと支援にあたっている。（基本的に通室届が出た際に児童生徒の保護者・担任・SSW・指導員の会を持っている）さらに、状況に応じ在籍校の教員に教育支援センターへの訪問を依頼し、面談や学習指導などの機会を設けることで、通室生の状況の共通理解を図っている。

通室している児童生徒は、生活リズムや学習の理解度、情緒的な不安定さなどの状況が異なっていることから個別対応の必要があり、指導員の勤務状況によっては人数的に十分な対応が難しい場面が多くある。また、常勤の指導員がいないため、引継ぎが難しい面もある。そのため、研究所の職員とも日頃より共通理解を図り、児童生徒に関わりを持ってもらい臨機応変に対応できる関係を築くなどの工夫をしている。

通室生は来室が不定期であることが多い。来室することを目標と設定している通室生は学習の積み上げができず、復帰につながりづらい。さらに夏休み明けや冬休み明けなどの通室が生活リズムの乱れからか、どの児童生徒もスムーズにスタートができない。長期休業中に新学期に向けた支援の充実と、支援センターへ通室届けが出されないまま不登校になっている児童生徒に対しての支援並びに各学校との連携の内容が今後の課題としてあげられる。また、支援センターは学校復帰だけを目的とするのではなく、子どもたちが支援センターの温かい雰囲気にふれ、エネルギーをためながら過ごせる居場所にしていきたいものである。

令和４年度 教育相談活動 等について

（窪川地域）

月	相　談	学校・保育所訪問	家庭訪問	巡　回	その他	備　　考
4月	9	11	0	8	37	
5月	10	19	0	8	54	
6月	14	15	1	9	73	
7月	9	7	0	9	48	
8月	7	1	2	8	29	
9月	15	10	1	8	37	
10月	8	13	2	8	62	
11月	10	2	2	8	62	
12月	7	12	1	8	46	
1月	4	2	1	8	64	
2月	8	22	4	8	41	
3月	12	12	3	8	49	
計	113	126	17	98	602	

（大正・十和地域）

月	相　談	学校・保育所訪問	家庭訪問	巡　回	その他	備　　考
4月	5	13	0	4	18	
5月	8	4	2	4	21	
6月	3	9	5	4	22	
7月	1	10	5	5	17	
8月	2	0	5	4	21	
9月	2	4	10	4	28	
10月	5	2	8	4	30	
11月	4	3	7	4	32	
12月	2	7	10	4	23	
1月	8	6	7	4	20	
2月	2	6	8	4	23	
3月	5	8	6	4	23	
計	47	72	73	49	278	

※　相談は、来所・電話相談を含む。

※　巡回は、「放課後子ども教室」への訪問

４．教育相談活動（教育相談員・ＳＳＷ）

【目的・概要】

児童生徒、保護者、学校、地域などからの相談を受け、学校だけでは対応が困難なケースに対して、環境への働きかけや調整を行い、福祉・医療などと結びつけることによって解決を図る。増加傾向にある不登校の子どもの支援にあたっては、家庭訪問を実施すると同時に、関係機関と連携して対応にあたる。また、義務教育終了後、引きこもり傾向にある１９歳未満の子どもについては、若者サポートステーション等との連携を図り、社会参加及び自立を目指した支援を行う。さらに就学前の厳しい環境にある子どもや発達が気になる子どもについても、小学校へ円滑に入学できるよう、保育所や認定こども園（以下「保育所等」という。）、関係機関等と連携して、その子どもと保護者への支援を行う。

【活動内容】

・問題を抱える児童、生徒が置かれた環境への働きかけ
・関係各機関とのネットワークの構築、連携、調整
・保護者、教職員等に対する支援や相談、情報提供
・放課後子ども教室の支援及び助言

【成果と課題】

(成果)

・課題を抱えた児童、生徒について、学校や支援機関への情報提供を行い、調整を図ったうえで連携して支援することができた。そして、その体制が軌道に乗りつつある。
・発達特性のある子どもやその家族への支援については、本人や家族の困り感に対して環境調整をし、各関係機関と相談しながら支援を行うよう心掛けた。
・ひきこもりや義務教育終了者については、関係機関と連携を図り、２０歳以降も切れ目のない支援を継続するため、関係機関への引継ぎを行った。
・就学前の子どもについては、定期的な保育所への訪問や保育士からの相談を受け、早期に子どもの課題を明らかにし、円滑に小学校へ繋げるように関係機関と連携を図った。
・子どもに関する共通の問題や悩み等を持つ保護者が、少しでもその悩みやストレスを解消できるよう「親の集い・交流会」を拡大して行なった。また、信頼関係の構築に努め相談しやすい場所にすることができた。
・義務教育終了後、ひきこもりなどで社会的孤立に苦しむ子どもに対して、社会参加や就労をサポートする「アウトリーチ支援」を関係機関等と連携しながら進めてきた。

(課題)

・不登校の児童生徒については、学校との情報共有や支援会を重ね、保護者との信頼関係を構築する中で学校や支援センターに繋げる支援を行ってきたが、つながりにくいケースがあった。
・教育相談員や SSW の役割に対して学校の理解や受け止めが弱く、課題があっても入りづらい場合がある。また、うまく連携できない学校もあった。

【今後の取り組み】

・不登校児を支援する場合、その課題は多様化・複雑化している。早急な課題解決は難しく長期にわたるケースが多い。学校との連携により、取り組みの方向性を確認しながら、未然の防止策を強固なものにしたい。
・一人一人の現状を把握し、ライフステージを通して、ニーズに応じた切れ目のない支援を継続する。

5．研究協力校の取り組み

【目的・概要】

教育研究所では、四万十町の教育振興及び児童・生徒の基礎学力の向上定着等、健全なる成長のために研究等を行う団体に対して、「研究協力校」として業務を委託している。

今年度は、以下にあげる２校を「研究協力校」として業務を委託した。

学校・団体名	研究業務	会長
七里小学校 「チームななさと」研究会	（1） 教科に関する研究	川添　節子 （七里小学校）
田野々小学校 「ほっこり学ぶ授業」研究会	（1）（3） 教科ならびに特別活動に関する研究	小島ふみ子 （田野々小学校）

【実施内容】

◎七里小学校

（1）教科に関する研究

研究テーマ	自分の考えを持ち、豊かに表現できる子どもの育成 「主体的に学び、筋道を立てて考え、表現する力」を育む算数科授業を通して
研究概要	【基礎研究】 算数科「主体的に学び、筋道を立てて考え、表現する力」の育成に関する、先行研究に習う。 （校内授業研究の進め方・ユニバーサルデザインの授業づくり等） 【調査研究】 観察対象を決め、年間を通してその変容を追う事例調査 全国学力・学習状況調査、県版学力調査、標準学力調査の結果分析 児童のノート記述や振り返りの内容に基づく表現力の調査 【授業研究】 「主体的に学び、筋道を立てて考え、表現する力」を育む授業実践 七里小授業スタンダードの改善（学びの振り返りを生かした授業）
研究の成果○と課題●	○全校研の事前研については、授業づくり講座の指定を受けている先進校の実践に学び、教材研究会形式にした。授業者以外のメンバーが２チームに分かれて教材研究を行い、お互いに考えた授業展開や単元構成についてプレゼンし合うようにしたことで、全員が自分事として教材に向き合うようになり、研究授業を観る際の視点も明確になった。授業者にとっても、多様な考えを聴く機会を得たことで、授業改善につながる事前研になった。 ○全国学調及び県版学調の採点及び分析を全教員で実施したことで、該当学年でなくても課題意識を持つことができ、組織的に取組改善を図ることにつながった。また、各種学力調査結果に基づく検証サイクルが確立できつつある。

	○オンラインサマーセミナー（算数）を校内研修に取り入れたことで、全教員が振り返りの重要性を認識した。また、振り返りの書かせ方のポイントについて学習部から提案したことで、書き方のコツをつかんだ児童も多い。１年生も授業の内容や学び方について振り返ることができるようになった。 ○算数科の授業研については全校研・ブロック研共に講師を招聘し、毎回テーマを変えて講話もいただいたことで、中身の濃い研修の機会になった。 ○算数科については、求答式の授業から脱却できつつあり、答えや式がどういう考え方によって導き出されたのかを考え、表現する学びが大切にされるようになってきた。 ●全校研を機会に教材研究の視点や仕方については学び合うことができたが、研究主題につながる表現力を高めるための手立て等の研究については、各個人の研究にとどまってしまった。年２回程度は、校内研に実践交流を位置付けていきたい。 ●ブロック研については、講師招聘の都合上１日にまとめて実施したため、事前研や事後研が計画的に実施できなかった。来年度から可能な限り別日に設定し、ブロック研の進め方についても全体で確認しておく。また、ブロック研での学びを個にとどめず全体で共有するシステムづくりを進める。 ●振り返りの書かせ方については研究したが、授業改善に生かすという視点での研究は十分にできていないので、次年度の課題である。

【実施内容】

◎田野々小学校

（１）（３）教科ならびに特別活動に関する研究

研究テーマ	『学びをつなぎ、主体的に考え、話し合う学習集団の育成』 ～ユニバーサルデザインに基づく、特活・算数科の授業の確立～
研究の概要	１．UDを視点とした授業研究会 ①UDを視点とした教室内の環境整備 ②モデル授業参観と講話 ６月１３日（月）　第５学年算数科モデル授業と学級経営について １０月２４日（月）　第３学年算数科授業と診断的指導講話 ３月　６日（月）　第５学年，第６学年授業公開 高知市教育委員会学校教育課　藤田　究先生 ２．各種学力調査の活用による授業改善 ①各種学力調査の問題分析 ②本校児童への加力指導

研究の成果と課題	【成果】 １．UDを視点にした授業研究 ①全学年の取組として児童が学習の見通しをもてるようシラバスの掲示ができた。教職員の言葉の精度を上げる必要性に気付いた。 ②モデル授業として算数科の学習指導の様子を見せていただき，児童の学習の達成状況を把握することができ，指導者の動線や児童との対話の在り方，さらに学級指導と教科指導の組み合わせ方について学んだ。また，多動傾向のある児童や学力が定着しづらい児童への関わり方について学んだ。講話では，学級に入りにくい児童に配慮した机の配置など細部にわたってご指導いただき，その後の校内研修で全体共有した。 ２．各種学力調査の活用による授業改善 ①本年度の全国学力・学習状況調査，高知県学力定着状況調査，標準学力調査は方向性が一定であり基礎基本と活用形が混在した問題であった。そのため，問題文が長く，問題解決のために状況を取り出す能力が要求され，問題文を読むだけで体力を消耗する児童にとっては難問ぞろいであることと現行指導要領の求める力とを共通理解した。 ②加力指導の時間は，「学習の楽しさを味わわせる」時間であり児童に問題を解くツールをもたせる時間と　して位置付け，難しい問題にも進んで取り組もうとする態度を養うことをめざすよう確認することができた。 【課題】 ○「聞く」力の指導が必要と捉えているが，教職員の言葉の精度を上げることが有効であると考えている。そこで，次年度は教職員の評価の言葉から考えたい。 ○授業改善については，これまでも算数科で行ってきたが，次年度は複式学級の編制があり，複式指導の研究も必要である。 ○各種学力調査は，授業改善の道具として今後も活用するが，本校の実態に合わせて焦点化した授業改善，加力指導に向かうよう活用したい。

【成果と課題】

研究協力校になった学校は、確実に実践を重ね研究が深まるなどの成果を上げている。

研究協力校２校については、研究授業や校内研修に参加させていただくことが出来た。研究協力校の実践の情報発信が十分できなかった。

【今後の取り組み案】

来年度も協力校とさらに連携を深めるように、授業等には積極的に参加をしていきたい。また、町内の取り組みへと広がっていくように情報発信を工夫していきたい。

６．副読本『わたしたちのまち　四万十町』の検証

【実施時期】

２月中　　アンケート実施（第３、４学年担当教員）

３月１３日（月）予定　　副読本部分改訂に向けての取り組みについて

【目的・概要】

学習指導要領改訂により教科書が変わることを受けて、四万十町の社会科副読本『わたしたちのまち　四万十町』の全面改訂を令和元・２年度において行なった。

そこで、昨年度は、副読本『わたしたちのまち　四万十町』がより効果的に使用できるよう、先生方の意見を集約し検証するべく検証委員会を開催した。

２年目となった今年度は、引き続きアンケートをとり、結果を集約し検証することで、３年後の部分改訂の際の参考にしていくこととする。

【成果と課題】

四万十町の社会科副読本『わたしたちのまち　四万十町』が全面改訂されてから２年目となり、内容等を含めて現場の先生方の意見を集約するために、２月にアンケートを実施した。その結果を受けて、検証する場を３月に実施するよう予定している。

【今後の取り組み案】

アンケートで集約された意見等を参考にしながら、部分改訂までの今後の取り組みを確認し進めていくこととする。

７．四万十教科書センターの運営

【運営要項】

〇設置場所・・・・「四万十町農村環境改善センター」の一室

〇開室・休室及び閲覧時間

開室日・・・・・月曜日～金曜日

休室日・・・・・土・日曜日、祝祭日、12月29日～1月3日

閲覧時間・・・・午前９時～午後５時

〇貸し出し期間・・・10日間を限度とする（展示会開催期間中を除く）

〇教科書展示会・・・文部科学省の告示により決定

（今年度開催期間：令和４年６月３日～６月１６日）

【目的・概要】

教育関係者の教科書研究の便宜や一般の方々への情報公開の一環として、平成２４年１月４日より四万十町教育研究所で企画・運営・管理を行っている。

主な業務内容としては、 教科書の貸し出しと教科書展示会の開催である。今年度も昨年度に引き続き、年度初めの校長・教頭合同会において、研究所の業務の一環として「四万十教科書センター」の運営のことをお知らせした。

今年度の教科書展示会は、令和４年６月３日から２週間開催した。

【成果と課題】

今年度も、年度初めから各校に教科書の貸し出しについて周知を行い、教科書センターや研究所前にポスターを掲示するなどの工夫も行った。また、昨年度に引き続き、広報や研究所便りでも展示会開催等についての情報発信を行った。展示会の開催期間中には、教育関係者以外の閲覧もあった。

しかし、教科書の閲覧や貸し出しについての周知は、まだ十分とは言えず、今後の情報発信にも工夫が必要だと思われる。

【今後の取り組み案】

少しでも利用者が増えていくように、情報の発信について、さらに工夫をしていきたい。

8．その他の取り組み

（1）研修会

期　日	内　容	備　考
5月11日	支援センター連絡協議会	
5月12日	四万十町人権教育研究協議会窪川支部役員研修会	改善センター
5月25日	高岡地教連教育支援部会	四万十町役場東庁舎
6月　1日	心の教育センター運営協議会	
6月17日	SSW 活用事業　第１回 SSW 初任者研修会	ZOOM
6月21日	心の教育センター来室	
6月29日	ひきこもり支援検討会	四万十町役場東庁舎
6月29日	SC の活用状況把握のための教育支援センター来室	
7月　1日	第１回 SSW（就学前）研修会	高知県青少年の家
7月　8日	第１回 SSW 研修会 ～児童生徒のメンタルヘルスにおける多職領域連携について～	ZOOM
8月24日	今倉 SC による教育支援センター研修会 ゲーム依存が強い児童生徒への支援及び保護者への働きかけ	
8月26日	相談支援体制の充実に向けた連絡協議会　高知県教育委員会	リモート研修
9月29日	高岡地教連教育支援部会	津野町
10月12日	ひきこもり支援検討会	四万十町役場東庁舎
10月24日	教育支援センターブロック別研修会	須崎市総合保健福祉センター
10月28日	SSW 活用事業連絡協議会	高知青少年の家
11月18日	保健所管内自殺対策関係連絡会	須崎市民文化会館
11月22日	高岡地教連教育支援部会	四万十町役場東庁舎
12月14日	ひきこもり支援検討会	四万十町役場東庁舎
12月16日	SSW 活用事業　第２回初任者研修会	ZOOM
12月26日	高知県児童虐待防止研修会	須崎市民文化会館
1月20日	心の教育センター来室	
2月　8日	第２回教育支援センター連絡協議会	ZOOM
2月11日	日本ソーシャルワーク学会中四国ブロック研修	ZOOM
2月14日	「発達性読み書き障害の診断と支援について 高知ギルバーグ発達神経精神医学センター	YouTube
2月15日	アウトリーチ型スクールカウンセラー活用把握のための 教育支援センターとのオンライン連絡会	オンライン
2月20日	高岡地教連教育支援部会	越知町町民会館
2月20日	第２回 SSW（就学前）及び親育ち・特別支援保育コーディネーター合同研修会	高知県青少年の家
2月27日	思春期精神保健支援者講演会	ちよテラホール

（2）所内会・全体会

【実施時期】

月・日	会の種別	場　所	月・日	会の種別	場　所
4/15	全体会・所内会	改善センター	10/5	全体会・所内会	改善センター
5/18	全体会・所内会	改善センター	11/4	全体会・所内会	改善センター
6/15	全体会・所内会	改善センター	12/7	全体会・所内会	改善センター
7/13	全体会・所内会	改善センター	1/18	全体会・所内会	改善センター
8/23 (中止)	全体会・所内会	改善センター	2/13	全体会・所内会	改善センター
9/9	全体会・所内会	改善センター	3/22	全体会	改善センター

【目的・概要】

所内会では、研究員の研修や調査研究、教育支援センターの運営等の報告を行い、情報の共有化を図るとともに各事業に対して検討を行う。所長が少年補導センター所長も兼ねており、少年補導センターを含む全体会と所内会を月１回開催している。

【成果と課題】

全体会は定期的に開催することができた。全体会で話し合う大まかな内容は、以下の通りである。

日程	全体会の流れ
9:30～10:30…少年補導センター所内会 10:30～11:00…全体会 11:00～12:00…研究所所内会 ※兼務である所長が全ての会に参加し、大正からの参加もあるため、できるだけ時間を有効に使えるように工夫している。	１．月行事の確認 ２．所内報告 ３．今後の取り組み ４．その他

所内会では、教育研究所内の各事業の検討や情報を共有するとともに、学校教育課支援担当職員が参加しており、相互の情報共有も図ることができた。そして、教育支援センターは場所が離れていることから、通室してくる児童生徒の様子や支援の状況を全体で把握し、共通認識を深めることができた。教育相談活動についても事例検討を行うことができ、役割は大きい。

【今後の取り組み案】

月１回の所内会を原則とし、教育研究所内と教育支援センターの活動についての意見交換を行い、今後も情報の共有化を図っていくこととする。その中で各事業の検討を行うとともに、教育支援センターの円滑な運営に向けての支援策を考えていくこととする。

来年度も、８月にも会を開催して夏休み中の情報共有をすることで、学校と連携しながら２学期最初の登校や支援がスムーズに行えるようにしていきたい。

（３）教育研究所便り「しまんと」

【実施時期】

第９４号　　５月　２５日 発行
第９５号　　７月　１３日　発行
第９６号　　１０月　１３日　発行
第９７号　　１２月　１６日　発行
第９８号　　３月　　６日　発行

【目的・概要】

今年度より、教育研究所便り「しまんと」をホームページにアップし、研究所の活動内容を町民に皆様へも知ってもらえるようにした。

教育研究所の相談業務や支援センターについては保護者への周知が必要であると考え年度当初には、小中学校の家庭へ配布した。

支援センターの活動の報告や研究所の業務内容を中心とした通信とし、引き続き町内の教職員、教育研究所運営委員、教育委員、他市町村教育研究所に配布している。

研究員による研究に係る情報発信として、今年度は新たに「研究員通信」を発行し、ICT に係る内容を中心とし、町内の教職員を対象に配布した。

【成果と課題】

研究所の業務内容の周知や支援センターの活動報告をホームページでも知らせることができた。

また、今年度は保護者や地域に向けて情報発信できたことや町内の先生方に伝えたいことをまとめて、「研究員通信」として発行できたことはよかった。

研究所の業務内容や相談業務について、保護者や地域への周知はまだまだ十分でないと考える。

【今後の取り組み案】

来年度もホームページへアップし、研究所の活動内容を繰り返し町民にも知らせていきたい。

（4）えんぴつの持ち方教室

【実施時期】

4月22日	十川小学校　影野小学校
4月26日	田野々小学校　昭和小学校
5月16日	仁井田小学校　七里小学校
5月17日	窪川小学校　川口小学校
5月19日	興津小学校
5月26日	北ノ川小学校　米奥小学校
6月 7日	東又小学校
9月 9日	見付保育所
9月12日	松葉川保育所
10月14日	興津保育所
10月17日	ひかり保育所
10月21日	川口保育所
10月28日	くぼかわ保育所

【目的・概要】

今年度も、四万十町内の２業者のご厚意により、高知市の絵本の店コッコ・サンが考案した特別な鉛筆を寄贈していただいた。鉛筆の正しい持ち方を早いうちから身に付けることができるように、「えんぴつ教室」を開催することとする。

今年度から、入学前の年長児を対象にした持ち方教室（希望）も開催することとし、より早い段階でえんぴつの正しい持ち方を知る機会とする。

【成果と課題】

今年度も、教育研究所が開催の日程調整、コッコ・サンとの連絡調整、お礼状の取りまとめを行うことでスムーズに開催することが出来た。また、鉛筆の持ち方教室に研究員も可能な限り同行し、町内の小学校１年生、保育所年長児の授業を参観させていただいて、鉛筆の持ち方指導について学ぶことが出来た。

【今後の取り組み案】

来年度も、入学してから早い段階でのえんぴつの持ち方教室が開催できるようにしたい。

また、小学校入学前（保育所年長）へのえんぴつ持ち方教室も引き続き開催できるようにしたい。

令和４年度 四万十町教育研究所スタッフ

所　　長	野村　泰子	
研 究 員	浜口　千茶	
教育相談員	伊賀　修	山崎　一
教育支援センター指導員		
	中平　均	中津　吉弘
	榊山　雅子	藤原　克彦
	国広　由香	
スクールソーシャルワーカー		
	齋藤　マサ	小野川　恵利
事務職員	長山　智花	

令５年３月３１日